

文部科学省

「地域社会に根ざした高等学校の

学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)」

成果報告書

(大分県)

## 1. 事業概要

### 1.1. 本事業に取り組む課題と目的

本県では、平成 17 年度からの高校再編で、県立高校を 53 校から 40 校に削減し、学校の適正規模化を図るとともに、学習の機会確保の観点から、中山間地域を中心に複数学科を一枚に統合した総合選択制高校を設置するなど、生徒の学ぶ環境を整備してきた。

その後、さらなる少子化の影響により、高校の学級数を削減せざるを得ない中、結果的に地域の小規模校には、地域全域から幅広い学力層の生徒が入学し、同じ教室内で、かつ同じペースで学習に取り組む状況が生じている。

本構想の核（コア）として設定した中津南高等学校耶馬溪校（以下、耶馬溪校）は、本県唯一の分校であり、中山間地域にある小規模の学校である。学校が所在する中津市は、市街と中山間地域の人口比 84：16、特に 0～19 歳の人口比は 89：11 であり、高校卒業時までの児童生徒数は、圧倒的に市街地に集中している。加えて、中山間地域に住む中学生のうち、一定数が都市部の大規模な高校に進学しており、都市部以外の多くの地域の高校において、さらに入学者が減り小規模校化が進むという循環を生んでいる。

一方で、中山間地域の高校では、大自然や伝統文化などの恵まれた地域資源を強みとして、平成 28 年度から高校の魅力化を進めているところであり、総合的な探究の時間等において、地元で根ざした教育活動を実践している。また、小規模校ならではの生徒に寄り添う丁寧な学習指導により、在校生の満足度は高いものの、より高度な知識や広範な学習を含んだ、個々に応じた最適なレベルの授業を望む声も生徒から聞かれるなど、限られた教員数で対応することの難しさがある。

今回、受信校として、耶馬溪校の他 3 校（久住高原農業高等学校、国東高等学校、佐伯豊南高等学校）を挙げたが、いずれも、少子高齢化が進む中山間地域に立地する学校であり、学科規模の縮小や小規模校化が進む中で、生徒・教員数ともに確保が難しい状況である。

地域の活力創出にもつながる中山間地域の学校をいかに維持し、地域の核としての役割を果たしていくかという観点で考えると、これまで以上に、地元の中学生が行きたい、学びたいと思う魅力ある学校づくりを進め、入学者を確保していく必要があり、小規模校としてのデメリットをいかに解消していくかが課題となる。

入学者の増加、地域を担う人材の育成、結果として地域の活力の創出という好循環を生み出すためにも、中学生が地元の高校に進学しても、安心して個々の進路実現に向かって邁進できるような学校の体制づくりが必要である。例えば、大学進学も視野に入れた学力向上や、専門的なスキルアップを図る授業において、多様な生徒の習熟度や進路ニーズに対応する、よりきめ細かい学習指導体制を整えることで、中山間地域における魅力ある学校づくりを後押しし、生徒が地域の高校に通う意義や価値を新たに生み出すことにつながると思う。

中学校卒業予定者数の減少が再び見込まれる令和 7 年度までに、中山間地域における高校の魅力を高めることは、県内の高校生の学びの場として、県立高校の学校数の減少を食い止めることにつながるため、遠隔教育の充実が喫緊の課題と考えている。

### 1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業など ICT も活用した連携・協働の取組

- ① 地域の小規模校での、生徒の多様なニーズに応える習熟度別の遠隔授業の実施
- ② 地域との協働、他校生徒との連携による地域課題解決に向けた協働学習の実践
- ③ 限定的な教員配置の課題に対応するための免許外職員による受信体制の研究

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

① 各連携校における校内運営体制の構築

（本構想の PT を校内に設置、遠隔授業担当と地域連携担当の 2 班を編成）

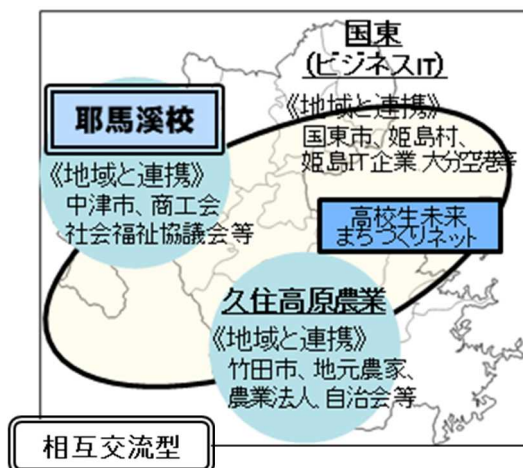
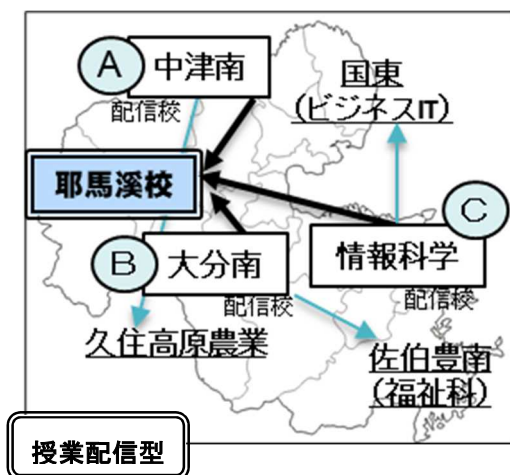
② 連携校の当該担当班間で連携・調整し取組を実施、実施後に協働して検証・改善

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

①本構想の受信校4校において、県予算事業を活用しコンソーシアムを立ち上げ

②第一段階として、各高校はコンソーシアムを活用し、地域ぐるみの教育を実践

(高校を核とした縦の連携)。第二段階で、地域連携に係るネットワークの核となる耶馬溪校をリーダー校とし、生徒が主体となって意見交換などの企画を考案、実施(耶馬溪校を中心とした横の連携)



### 1.3. ロードマップ

#### (1) 機器整備関係

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
対象校	<p>【A:習熟度(数学・英語)】 (数学A・英語表現I) 中津南 → 耶馬溪 (数学A・英語表現II) 中津南 → 久住高原農業</p> <p>【B:専門科目(福祉)】 (こころとからだの理解) 大分南 → 耶馬溪 (介護福祉基礎) 大分南 → 佐伯豊南</p> <p>【C:産学連携(商業)】 (情報処理) 情報科学 → 耶馬溪 (プログラミング) 情報科学 → 国東</p>		<p>【A:習熟度(数学・英語)】 (数学A、論理表現I) 中津南 → 耶馬溪 中津南 → 久住高原農業</p> <p>【B:専門科目(福祉・土木)】 (福祉:こころとからだの理解) 大分南 → 耶馬溪 (福祉:介護福祉基礎) 大分南 → 佐伯豊南 (土木:測量) 国東 → 三重総合</p> <p>【C:産学連携(商業)】 (情報処理) 情報科学 → 耶馬溪 (プログラミング) 情報科学 → 国東</p>
機器整備	<p>【配信校】 Neat Bar、大型モニター、モニター、パソコン 【受信校】 Neat Bar Pro、大型モニター 生徒1人1台端末 (MetaMoji Class Room)</p>		

## 【配信校】



## 【受信校】



## (2) 遠隔授業

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
実施科目	A: 数学・英語 B: 福祉 C: プログラミング	A: 数学・英語 B: 福祉 C: プログラミング	A: 数学・英語 B: 福祉・測量 C: プログラミング
環境整備 その他	配信校と受信校の校時の調整、連絡体制の構築 学習支援員、ICT教育サポーターによる授業支援体制の構築		

## 2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

### 2.1. 調査計画

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

①地域の小規模校での、生徒の多様なニーズに応える習熟度別の遠隔授業の実施

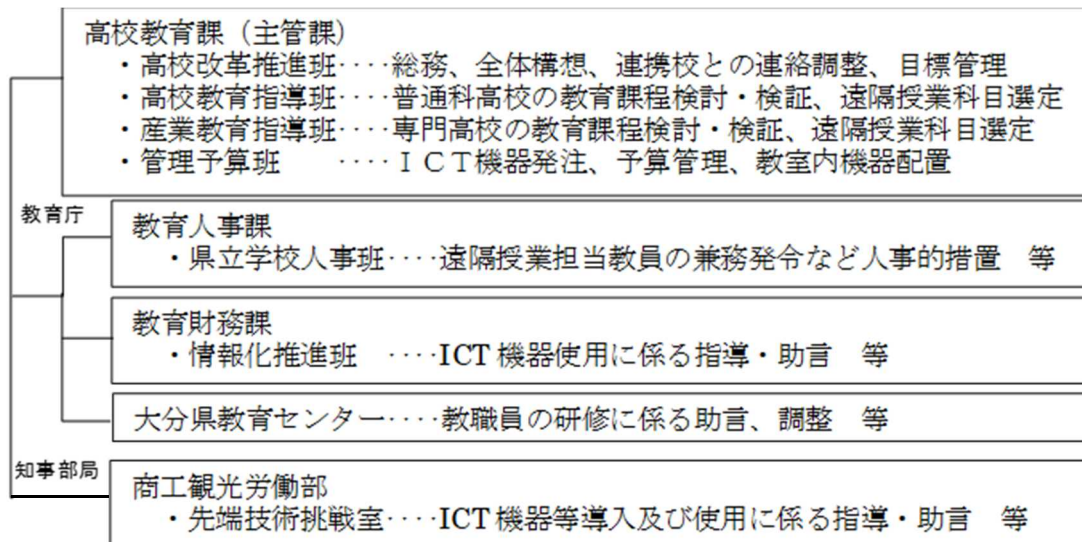
- ・配信校3校から、受信校4校に対し、7科目8講座実施

②限定的な教員配置の課題に対応するための免許外職員による受信体制の研究

- ・受信校において、教員と免許外職員（学習支援員・ICT教育サポーター）の複数での配置

## 2.2. 実施体制

○管理機関（大分県教育庁）の組織体制と主な業務内容



○学期に一度以上、C I O ・管理機関による現地視察を実施

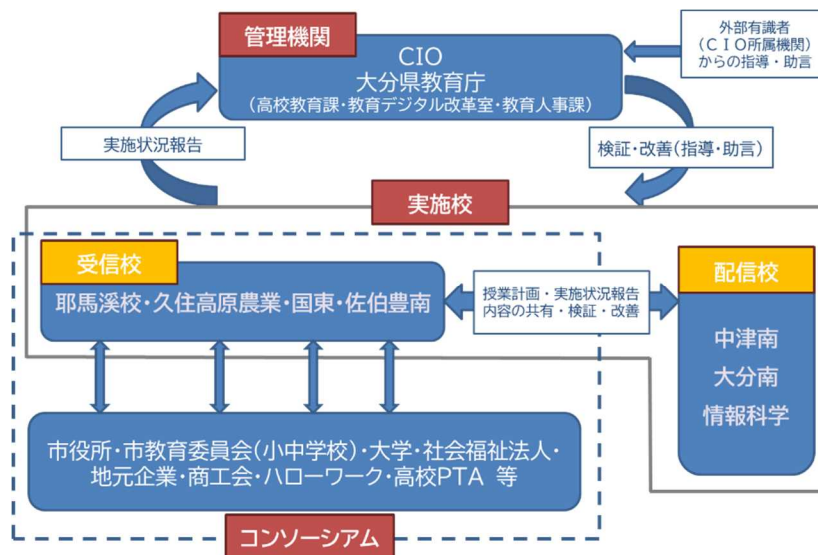
- ・管理機関による聞き取り（受信側生徒、配信側教員からの実施実態調査として）

○ネットワークに係る機器等の管理

- ・教育財務課、教育デジタル改革室、先端技術挑戦室と連携し、学校への助言を行う。

○C I O の活用（遠隔授業システムの構築等）

- ・本事業の企画構想段階から参画、管理機関・連携校への指導・助言
- ・ネットワークの実施状況について毎月の実施状況報告を確認、成果・課題の検証
- ・実施状況の中間評価に係る学校訪問、連携校・管理機関への指導・助言
- ・地域との協働による「探究的な学習活動」に係る研修会での講演又は講師の選定



### 2.3. 取組概要

年 月	実施内容
R 3年5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修（連携校関係者） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業内容とスケジュールの確認</li> <li>・ 本年度の達成指標確認</li> <li>・ 実施に向けた課題の整理</li> </ul> </li> <li>○導入機器検討</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の実施に向けた打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理機関から課題への対応案提示</li> <li>・ R 4 教育課程・校時 協議</li> </ul> </li> <li>○導入機器検討・決定</li> <li>学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の実施に向けた打ち合わせ</li> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修（関係校職員） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円滑な授業試行に向けた準備</li> <li>・ 遠隔授業内容・回数等協議</li> </ul> </li> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業実施に向けた進捗表作成</li> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の現状等について意見交換</li> </ul> </li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○遠隔授業計画表提出</li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機器設置</li> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○連携校オンライン発表会打合せ（PTリーダー、班チーフ）</li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機器設置</li> <li>○学校と管理機関で問題点共有</li> </ul>
R 4年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の試行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中津南⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・ 情報科学⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・ 大分南⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> <li>○C I O・管理機関の学校訪問</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の試行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中津南⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・ 情報科学⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・ 大分南⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○HP等で校内発表会紹介</li> <li>○CIO・管理機関の学校訪問</li> <li>○遠隔授業の試行報告書提出（問題点等）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の試行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> <li>○本格授業実施に向けた準備</li> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○CIO・管理機関の学校訪問</li> </ul>

年 月	実施内容
R4年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修（連携校関係者） <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容とスケジュールの確認</li> <li>・本年度の達成指標確認</li> <li>・実施に向けた課題の整理</li> </ul> </li> <li>○配信担当者と受信校教科担当と協議</li> <li>○遠隔授業実施に向けた進捗表作成</li> <li>○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信教員と受信側教科担当との協議</li> <li>○CIO・管理機関の学校訪問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書に対する管理機関からの助言</li> </ul> </li> <li>○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> </li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修（関係校職員） <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な授業実施に向けた工夫改善</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容について協議</li> <li>・管理機関から課題への対応案提示</li> </ul> <p>○R 5年度遠隔授業の実施に向けた打ち合わせ（受信校校内）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程協議</li> </ul>
9月	<p>○R 5年度遠隔授業の実施に向けた打ち合わせ（受信校配信校間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程協議</li> </ul> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul>
10月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul>
11月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul> <p>○学校から報告書提出（問題点等）</p>
12月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p> <p>○C I O・管理機関の学校訪問</p> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul>
R 5年1月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul>
2月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p> <p>○遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業</li> <li>・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東</li> <li>・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南</li> </ul>
3月	<p>○配信教員と受信側教科担当との協議</p>



### 2.3.1. 遠隔授業実施表

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	試行・本格実施の別 (R3・R4・R5)	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/全授業回数
中津南高校	中津南高校 耶馬溪校	数学	数学A	第2学年	無	習熟度	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員 ICT教育サポータ	45/57
中津南高校	中津南高校 耶馬溪校	外国語	英語表現 I	第2学年	無	習熟度	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員 ICT教育サポータ	43/57
中津南高校	久住高原農業高校	数学	数学A	第2学年	無	習熟度	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	47/60
中津南高校	久住高原農業高校	外国語	英語表現 II	第2学年	無	習熟度	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	学習支援員 ICT教育サポータ	47/60
情報科学高校	中津南高校 耶馬溪校	商業	情報処理	第3学年	無	専門性	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	学習支援員 ICT教育サポータ	40/52
情報科学高校	国東高校	商業	プログラミング	第2学年	無	専門性	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	32/58
大分南高校	中津南高校 耶馬溪校	福祉	こころとからだの理解	第3学年	無	専門性	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	36/56
大分南高校	佐伯豊南高校	福祉	介護福祉基礎	第3学年	無	専門性	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	10/99

## 2.4. 取組内容

- ・遠隔授業実施科目について、本事業期間同一科目・同一学年にて実施。
- ・授業構成や授業評価にかかる見取りなどの研究の推進。
- ・受信校における配置体制の改善。

## 2.5. 考察

(1) 遠隔授業全般について

### 【遠隔授業での取り組み】

① 定期的な対面授業の実施。

・年度当初、単元の節目などに、対面にて授業を実施することで、生徒とのコミュニケーションを高めていくことができる。

② 商業「プログラミング」の授業において、毎日課題を実施。

・授業評価につながり、なおかつ対面授業のみならず、コミュニケーションツールになることが考えられる。

③ 福祉科目において、生徒間交流（実習報告など）を実施。

・中津南高校耶馬溪校において、実習の振り返りを大分南高校の生徒を交えて行うことで、新たな気づきと確認ができることで、生徒の思考を広げることができる。

### 【遠隔授業における課題と対応策】

① 音声について

(課題)

- ・英語において、発音などの確認が出来にくいことがある。
- ・内向的な生徒の質問に、聞き取りができなく、聞き返すことで、より発言が少なくなってしまう。

(対応策)

- ・対面授業の際に、発音などを中心とした授業を実施した。
- ・対面授業時、または課題の返却時にコメントを付けるなど工夫を凝らすことで、コミュニケーションが深まることで、積極的に発言する生徒の育成につながった。

② 生徒一人ひとりへの対応について

(課題)

- ・タブレットを活用したリアルタイムによる練習問題指導において、ヒントなど、個に応じた対応をしたいときに、机間指導ができない。
- ・授業時間以外に、質問や補習などの対応ができていない。

(対応策)

- ・スピーカーを通して、生徒本人に了承を取ってから、スピーカーにて指導を行うなどの配慮をするようにした。
- ・MicroSoft Teams に質問箱を設け、個人の質問を受け付けれる環境を作成した。しかし、放課後の補習などについては、学校間連携のため、自校での指導との関係もあり、引き続き検討が必要である。

(2) 限定的な教員配置の課題に対応するための免許外職員による受信体制の研究について  
(課題)

- ・受信側の立会者として、免許外職員を配置することについて、  
授業担当者が評価などについて、相談できる環境が必要なため、同一教科の先生が良い。
- ・授業中の安全管理など、受信側の体制に頼る面に、不安が生じてしまう。

(対応策)

- ・年度当初は、受信校側の立会者として、教科担当教員と免許外職員の2名体制にて取り組み、年間の進行状況を確認しながら、免許外職員のみシフトしていく。

## 2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
目標値		C3以上60%	C3以上70%	B層5名以上
実績値	平均値D2	C3以上30.1%	C3以上37.5%	
把握のための測定方法及び指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受信校5校：進路マップ「基礎力診断テスト」 年2回受験</li> <li>・受験後の検討会で学力向上の検証（受信校複数の場合は合同検討会）</li> <li>・R3～R4はC層の増加（底上げ）、R5は上位層の増加を図るもの</li> </ul>			

(2) 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
目標値		4	5	5
実績値	0	0	2	
構成校の数	R4：7校、R5：8校			

(3) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：受信校生徒の4年制大学への進学者数

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
目標値		6	8	10
実績値	4	4	29	
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲向上と学力向上の効果として大学進学者の増加を測るもの</li> <li>・R3試行、R4遠隔授業（多くが2年生対象）の成果を見据え設定</li> <li>・受信校5校（該当学科・コース）の合計数とする。</li> <li>・R3：耶馬溪校2名、久住高原農業2名、国東0名 佐伯豊南1名、三重総合24名 (国東はビジネスITコース、佐伯豊南は福祉科)</li> </ul>			

成果目標②：授業を受けることで自分の学力が向上していると思う生徒（割合）

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
目標値		73.0%	76.5%	80.0%
実績値	69.6%	85.9%	90.2%	
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりきめ細かい授業の提供による学力向上の自己評価を測るもの</li> <li>・高校教育課が毎年実施する学習習慣実態調査を活用（受信校平均） 高2対象（国東ビジネスITコースのみ1年、佐伯豊南は福祉科）</li> </ul>			

## 2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

### (1) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
実績	0	0	8	
見込み		7	8	9

### (2) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：遠隔授業の取組についてメディア等を通じて情報発信した回数

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
実績	0	0	0	
見込み		8	13	16
活動指標 の考え方	・学校の魅力発信や、他校への普及の取組を促進するために設定 ・R3年以降、連携校7校に加え管理機関からも情報を発信			

## 3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

### 3.1. 調査計画

（本県の現状）

- ・H28年度から、高校の魅力化を進めていく上で、地域との連携・協働に取り組み、地方の高校にコンソーシアムを立ち上げている。
- ・コンソーシアムの設置により、地域との連携が進んできた学校については、コミュニティ・スクールを導入している。（R1～ 久住高原農業高校、R5～ 中津南高校耶馬溪校、国東高校）

（各学校のテーマ）

- ・中津南高校耶馬溪校

テーマ：地域とつながり学ぶ耶校プロジェクトⅡ  
小さな学校の大きな挑戦



- ・佐伯豊南高校

テーマ：豊かな南の海「佐伯のチカラ」プロジェクト  
～佐伯の地から学びや活力を積極的に発信し、  
様々な人々との絆を大切にする生徒を育てる学校づくり～



- ・久住高原農業高校

テーマ：目指せ「農業マイスター」 地域農業で「学ぶ。見つける。磨く。」  
～久住高原農業高校を中心とした協働コミュニティー構想～



- ・国東高校

テーマ：「地域とともに発展」プロジェクト  
～ 一歩さき、そのさき、くにさき！ ～



対象校	コンソーシアムを構築する構成団体	各学校取組計画
中津南高校 耶馬溪校	中津市役所耶馬溪支所	6月：第1回耶馬溪校地域連携推進協議会（コンソーシアム連絡会） ホタル授業 だいだいクラブ（定期開催） 7月：先輩と語る会 9月からの事業打ち合わせ講師依頼（随時） 9月：洋菓子講習会 S D G s 外部講師招へい 10月：フィールドワーク 取材活動 編集 外部講師招へいによる活動 1月：成果発表会 2月：第2回耶馬溪校地域連携推進協議会（コンソーシアム連絡会）
	中津市教育委員会学校教育課	
	社会福祉法人もみじ園	
	中津市企画観光部地域振興・広聴課	
	中津市立耶馬溪中学校 元校長	
	耶馬溪校 PTA	
	中津市しもぎ商工会	
	下郷農協(追加)	
久住高原農業高校	竹田市教育委員会	4月：竹田市食育事業① 5月：第1回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 6月：小学校との交流授業 竹田市地場企業説明会（3年） 地元農業法人等説明会（2・3年） 7月：インターンシップ 10月：農業現地研修会（1年） 林業職場体験会（2年） 清掃登山 竹田市食育事業② 第2回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 中学校への出前授業 11月：収穫祭 竹楽ボランティア 中学校への出前授業 12月：竹田市食育事業③ 中学校への出前授業 1月：学習成果発表会 2月：第3回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 3月：野焼き
	九州大学 農学部付属農場高原農業実験実習場	
	竹田市総務課	
	竹田市久住支所	
	久住高原農業高校 PTA	
	竹田市地域おこし協力隊	
	大分県豊肥振興局 農山村振興部	
	竹田市久住町立都野中学校	
	竹田市久住町立都野小学校	
	地域代表（農業関係）	
	企業代表（農業関係）（追加）	
	国東高校	
国東市教育委員会		
国東市財政課		
国東市政策企画課		
国東市学校教育課		
大分県産業教育振興会		
各企業（追加）		
佐伯豊南高校	佐伯市 地域振興部 商工振興課	6月：佐伯豊南高校魅力化・夢・未来の会（コンソーシアム連絡会） 「豊南マンスリー（中学生向け学校新聞）」を毎月発行・配布 別府大学・県内専門学校等へ進学校訪問 8月：Web版「成長の軌跡」の設計、委託先との仕様調整 10月：花壇造成プロジェクトの企画会議（地元自治会） 11月：講師招聘事業 出前講座 12月：4科合同同学修成果発表会 2月：佐伯豊南高校魅力化・夢・未来の会（コンソーシアム連絡会）
	社会福祉法人青山21 げんきファーム	
	川澄化学工業株式会社	
	大分県南部振興局	
	別府大学 食物栄養科	
	ジョブカフェおおいた 佐伯サテライト	

### 3.2. 実施体制

【学校名： 中津南高校耶馬溪校 】

機関名	機関名
中津市役所耶馬溪支所	中津市立耶馬溪中学校 元校長
中津市教育委員会学校教育課	耶馬溪校 PTA
社会福祉法人もみじ園	中津市しもげ商工会
中津市企画観光部地域振興・広聴課	下郷農協

【学校名： 久住高原農業高校 】

機関名	機関名
竹田市教育委員会	大分県豊肥振興局 農山村振興部
九州大学 農学部付属農場高原農業実験実習場	竹田市久住町立都野中学校
竹田市総務課	竹田市久住町立都野小学校
竹田市久住支所	地域代表（農業関係）
久住高原農業高校 PTA	企業代表（農業関係）
竹田市地域おこし協力隊	

【学校名： 国東高校 】

機関名	機関名
国東市（副市長）	国東市学校教育課
国東市教育委員会	大分県産業教育振興会
国東市財政課	各企業
国東市政策企画課	

【学校名： 佐伯豊南高校 】

機関名	機関名
佐伯市 地域振興部 商工振興課	大分県南部振興局
社会福祉法人青山21 げんきファーム	別府大学 食物栄養科
川澄化学工業株式会社	ジョブカフェおおいた 佐伯サテライト

### 3.3. 取組概要

年 月	実施内容
4年4～5月	○コンソーシアム校内WG会議（中心メンバーによる実務会議）
6月	○第1回コンソーシアム連絡会 ・学校の目指す生徒像の共有化、学校の活動計画の提示 ・地域探究学習の計画等
7月	○連携校間打合せ（耶馬溪、国東、久住高原農業） ・PTリーダー・班チーフ顔合わせ、年間スケジュール確認
9月	○コンソーシアムWG会議（中心メンバーによる実務会議） ○連携校間打合せ（PTリーダー、班チーフ）

10月～ 1月	○第2回コンソーシアム連絡会 ・地域探究学習の進捗と検証・改善
2月	○探究的学習 校内報告会 ・校内で地域探究学習成果発表会 ・コンソーシアム関係者参加・助言 ○HP等で校内発表会紹介
3月	○第3回コンソーシアム連絡会 ・年間総括（検証・改善に向けて）

### 3.3.1. 地域と協働した取組実績

- (1) 総合的な探究の時間を中心に、近隣の小中学校との連携（出前授業など）、地域との連携（高齢者サロンなど）を実施し、授業で学んだことを地域の方々に、還元できるような取り組みを行った。
- (2) 地域との連携による学習成果の発表を行うことで、生徒の学びを実社会へとつなげることができ、学習意欲の向上につながった。

### 3.4. 取組内容

対象校	各学校取組
中津南高校 耶馬溪校	5月：第1回耶馬溪校地域連携推進協議会（コンソーシアム連絡会） ホタル授業 だいだいクラブ（定期開催） 7月：先輩と語る会 9月からの事業打ち合わせ講師依頼（随時） 9月：洋菓子講習会 SDGs 外部講師招へい 10月：フィールドワーク 取材活動 編集 外部講師招へいによる活動 12月：SDGs ワークショップ 2月：成果発表会 第2回耶馬溪校地域連携推進協議会（コンソーシアム連絡会）
久住高原農業高校	5月：第1回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 6月：外部講師招聘授業① 7月：外部講師招聘授業② 9月：外部講師招聘授業③④ 10月：竹田市食育事業① 外部講師招聘授業⑤ 第2回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 11月：収穫祭 竹楽ボランティア 竹田市食育事業② 12月：竹田市食育事業③ 中学校への出前授業 1月：学習成果発表会 竹田市食育事業④ 2月：第3回学校運営協議会（コンソーシアム連絡会） 竹田市食育事業⑤

対象校	各学校取組
国東高校	7、9、10、1、2月：デザインシンキング（講演会・中間発表・企業訪問・発表） 5、6月：近隣の中学校への出前授業 8月：リージョナル・メディカリスト育成セミナー 10～12月：夢ラボ（講演会・訪問インタビュー・発表） 5～12月：七島蘭苗植、オリジナル製品製作 12月：ため池架橋整備 1月：課題成果発表会 全体のコンソーシアム連絡会は実施せず、取組項目ごと協議会を適宜実施
佐伯豊南高校	5～10月：豊南アカデミー（出前授業・体験学習） 6月：佐伯豊南高校魅力化・夢・未来の会（コンソーシアム連絡会） 「豊南マンスリー（中学生向け学校新聞）」を毎月発行・配布 7～12月：ドローン・ロボット教室 9月：Web版「成長の軌跡」の作成 11月：花壇造成プロジェクト（地元自治会） 1月：4科合同学修成果発表会、新商品プレス発表 2月：佐伯豊南高校魅力化・夢・未来の会（コンソーシアム連絡会）

### 3.5. 考察

地域との連携による学習を進める中で、地域活動に生徒が積極的に参加していくことができた。また、このことにより、地域に必要な学校として、地域ぐるみの学校づくりにつながってきている。今後さらに推進していきたいと考えている。

- ・各高校の魅力づくりにどのように活用していくか、職員全体の意識改革と意識の向上を図っていく。
- ・生徒の満足度を向上させる体験学習を地域と連携し、進めていく。
- ・情報誌の発行や配布、HPの更新だけではなく、各中学校で開催される高校説明会に高校生を参加させるなど広報の改善を図っていく。また、各自治体及び市町村教育委員会への情報発信に努め、今後の継続的な連携協力を依頼。
- ・地域と学校が「育てたい生徒の資質・能力」を共有し、コンソーシアムのさらなる機能化を図ることで、地域を担う人材育成を推進する。

#### 3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

##### 1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

(1) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（実績）	5年度
目標値		7	9	11
実績値	5	5	5	



(参考) 上記のうち、学校設定科目の数

	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度
目標値		3	4	4
実績値	1	1	1	

## 2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標(アウトプット)

### (1) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度
実績	0	4	4	
見込み		4	4	5

### (2) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標②：県主催の高校魅力化に係る研修会への地域からの参加者数

	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度
実績	0	0	20	
見込み		4	17	21
活動指標 の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校の協働の進捗状況を測るもの</li> <li>・高校の魅力づくりへの、地域の主体的な参画という観点から設定</li> </ul>			

## 4. まとめ

- ・遠隔授業については、本事業の成果を踏まえるとともに、他道県での取り組み方法などを参考とし、現在取り組んでいる3種類(習熟度別・専門科目特化・産学連携)について、配信方法についてなど、令和6年度以降について、協議・検討を進めている。
- ・コンソーシアム事業については、地域との連携をさらに深めていく。

## 5. 次年度に向けた計画概要

### 5.1. 明らかにしたい事項

- ・遠隔授業の実施科目における効果的な配信方法(実技を含む科目の効果的な映像配信、及び安全管理について)を研究していく必要がある。
- ・地域の特色を活かした探究活動と、地域との協働による地域貢献型活動の内容を進めていくことにより、生徒が地域への興味関心が高まってきている。そのため、より地域と協働した内容に進化していく必要がある。

### 5.2. 重点的に取り組む取組

#### (1) 遠隔授業について

- ・実技・実験を有する科目について、受信校側の安全性の配慮の方法などや、配信側で事前に考慮できることについて、研究を進める。
- ・また、生徒の見取りや評価について、研究を進める。

#### (3) コンソーシアム事業について

- ・生徒間交流を行うことで、地域資源を活用した学びを通して、地域の良さを再認識するとともに、地域への貢献について、考えることができる生徒の育成に努める。

### 5.3. 実施体制

- ・遠隔授業の管理機関体制をもとに、①地域の核としての役割を果たしていくか ②地元の中学生在が行きたい、学びたいと思う魅力ある学校づくり などについて方向性を示し、地域を担う人材の育成や安心して個々の進路実現に向かって邁進できるような学校の体制づくりなど、地域の活力の創出という好循環を生み出していく体制づくりを進めていく。